

◇ 11月の天文暦 ◇

日 時	記 事
5 19	水星 東方最大離角
6 10	朔
7 17	立冬 (太陽黄経 225°)
22	月 最遠
14 14	上弦
16 9	水星 留
21 8	望
9	月 最近
22 14	小雪 (太陽黄経 240°)
16	土星 月の4°S通過
26 13	水星 内合
28 3	下弦

言いたい放題・言いたい放題・言いたい放題

一つの申し入れ

「将来計画およびその一環としての宇宙電波用大型装置の建設推進に関する申し入れ」

60年代世界の天文学は大きな発展をみせた。これに新しい観測装置の発展が大きく寄与したことは否めない。ここで現在の日本の観測装置をみると、世界的レベルで天文学を発展させていくに充分とは言い難い。特に光のみでなく、赤外、X線とともに重要になっている電波の分野における大型観測装置の欠如は、日本の天文学会全体の発展の妨げとなっている。しかるに学術会議の勧告や多くの研究者の期待にもかかわらず、天文学将来計画の一環としての宇宙電波用大型観測装置(45m電波望遠鏡および干渉計)の建設が遅れている。しかもその経過と

現状が責任ある立場から明らかにされていない。(昨年度、東大から文部省へ出された調査費予算が今年はおされられない公算が大きい)。このような事態は天文学研究者全体にとって大きな問題である。とりわけ世界の宇宙電波天文学が急激な発展のさ中にあることを考えるとき、この遅れは大きな損失と言わなければならない。

また天文学の発展とともに多くの分野の研究者の協力が不可欠となり、その数が全国各地に増加している現状を考えるなら、それらの研究者の研究が有効に進められるよう、研究交流費、旅費等の予算を確保し、全国の研究者の総意に基づいた運営のなされることがぜひとも必要である。このことは以前から我々が主張してきたことである。我々はそのためにも宇宙電波に関連する多くの研究者を結集した宇宙電波懇談会がさらに強化され全国の研究者の声を生かしイニシアティブを発揮することを期待してそのために努力する。

我々は、今までも将来計画の進め方に問題があると主張してきたが、特に現時点で、次の事柄を関係者に申し入れ回答を求める。

1. 全国の研究者の意見を充分反映させつつ将来計画全体をすみやかに討議、実現させること。
2. 学問的要求にこたえうる宇宙電波用大型観測装置がすみやかに建設されること。
3. 「大型宇宙電波望遠鏡小委員会」、「東京天文台長」は現在の事態の進行について明らかにすること。
4. 全国の研究者の総意に基づいた運営がなされるよう、共同利用の理念に基づいて計画が進められること。
5. 装置が円滑に運営され、研究・観測が充分行なわれるだけの人員、および設備、予算が確保されること。

1972年8月3日

(蛭ヶ野高原 天文・天体物理若手夏の学校)

